

政策コメンテーター報告(第2回)(意見照会期間:2016年10月31日～11月11日)

分野:	少子高齢化、社会保障
氏名:	松井キャンシー ゴールドマン・サックス証券株式会社副会長
質問事項	記述式回答
予測される経済・社会的な構造変化(2030年)	(300字以内で回答してください)
(1)① 2030年には、各分野において、どういった経済・社会的な構造変化が予測されるでしょうか。	2030年までに、日本の労働人口は大きく減少する見通しであり、人口の平均年齢はかなり高い水準まで上昇する可能性が高い。労働力、資本、生産性は長期的な経済成長のカギであるため、日本は、生産性向上と同時に就業率引き上げに向けた施策を直ちに講じる必要がある。
目指す経済・社会の姿(2030年)	(200字以内で回答してください)
(1)② また、そうした構造変化を踏まえ、我が国が目指す経済・社会の姿はどうあるべきでしょうか。	日本では世界に先行して高齢化が進んでいることから、他国がやがて生じるであろう人口動態の課題に対し、いかに対処すべきかを示す良い手本として貢献できる、またとない機会であると思う。
今後取り組むべき構造改革(2016年～2030年)	(300字以内で回答してください)
(2) 上記(1)で挙げられた経済・社会の姿を実現するためには、足元から今後に向けてどのような構造改革に取り組むべきとお考えでしょうか。基本的な考え方や具体的な方法がございましたらご記載ください。	労働就業率の改善に向けて、日本に必要なのは、1)女性や高齢者が更に労働市場に参加できるよう障害を取り除く一税制や法制、その他既存の障壁、2)雇用主が年功ではなく成果や実績に基づく評価、報酬、登用体系を導入するよう奨励する、3)民間部門、公的部門の両方において、リーダーシップを発揮し、意思決定を行うポジションへの女性の登用を促進する、ことである。